

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習指導 I Guidance in Fieldwork of social work I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	他フィールド履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	月曜～木曜の授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助実習の意義や目的を理解した上で、実習前に学ばなければならない内容を整理する。さまざまな施設や機関の現状を学習し、さらに社会人としての常識（身だしなみ・マナー）を身につけ、夏期休業中の体験学習へと結びつける。				
授業の目標				
①社会福祉士養成における相談援助実習の位置づけ、意義を捉えることができるようにする。 ②ソーシャルワーカーを目指す動機を説明できるようにする。 ③実際に実習を行う実習分野（利用者理解）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解を深めるようにする。 ④社会福祉士の倫理綱領と行動規範を学び、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務（個人情報保護の理解を含む）を具現化できるようにする。 ⑤体験学習の準備をする。				
授業の方法				
講義および演習。課題作成等。				
学習の成果（学習成果）				
ソーシャルワーカーを目指す動機とそのしぐみを説明でき、実習に向けて専門職および社会人としてのふるまいを身につけることができる。 演習、課題作成を通じ、学生同士の共働、発表における情報共有とディスカッションを取り入れ、学生自身が学ぶ力を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標や方法、成績評価方法について説明）【課題1「大栗の里を見学して」提出】 短大（2年間）での学び（授業の構成、短大での学び方、ノートの取り方、レポートの書き方等）			
第2回目	図書館にて図書館利用方法について「文献・資料の集め方と使い方」			
第3回目	ソーシャルワークの理解／ソーシャルワークを学ぶ実習のねらい			
第4回目	相談援助実習のしぐみ、実習動機、ボランティアについて、施設情報の集め方、施設・機関でのマナー			
第5回目	社会福祉士の仕事「DVD 社会福祉士の仕事」			
第6回目	「社会福祉士の仕事」外部講師：社会福祉士 安塚卓思（所属：社会福祉法人すぎのこ会、障がい者支援施設、ひのきの杜共生 支援主任）【課題2「講演を聴いて」：提出7回目】			

第7回目	事前学習① 地域社会の理解①(地域に関する資料)
第8回目	事前学習① 地域社会の理解②(自分の居住地に関する資料を集める)
第9回目	事前学習① 地域社会の理解③(自分の居住地について分析を行う)
第10回目	事前学習① 地域社会の理解④(自分の居住地についての発表) 【課題3 地域社会の理解】
第11回目	事前学習② 利用者と専門職・施設の理解① (福祉小六法の使い方)
第12回目	事前学習② 利用者と専門職・施設の理解② (資料収集・分析)
第13回目	事前学習② 利用者と専門職・施設の理解③ (発表) 【課題4 利用者と専門職・施設の理解】
第14回目	実習希望調査・面接
第15回目	夏期休業中の見学・体験学習について、夏期休業中の過ごし方、実習希望面接

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	45%	以下の視点で評価する。教科書等の準備をして授業に臨んでいる。演習に意欲的に参加している。他者の発表を聴いたり意見や感想を述べ学び合うことができている。自己覚知に努めている。
レポート	45%	課題レポートと授業内で作成する小レポートと課題で評価する。S評価の基準は、提出期限、指定の様式を守り、誤字脱字がない。講義やワークの意味を捉えて内容がまとめられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)	10%	課題の発表態度を評価する。S評価の基準は、事前に自分の作成した課題の要点をまとめ、適切な言葉で簡潔に時間内で発表していること。
その他		

教科書と参考図書

教科書：「ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習」日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター監修／中央法規
「社会福祉小六法」／ミネルヴァ書房

履修上の留意点・ルール

欠席をした場合は、内容をクラスメイトに確認し、書類や課題は次回授業までに担当教員まで取りに来ること。